

室内建具を刷新、特寸でも3日以内に出荷



LIXILは、室内建具シリーズ「ラシッサ」を4月2日に発売する。また、国内工場に設備投資を行い、リフォーム対応力を強化。**特注寸法品であっても全デザインで3日以内に出荷できる態勢を整えた。**

今年でインテリア建材の発売から30周年を迎えるにあたり、従来シリーズの「クリエ」「ラテオ」「ヴィンティア」などを統合し「ラシッサ」として商品体系を組み直した。キャッチコピーは「私らしさを、かたちに。」

「この30年間で、プロユーザーが提案しオススメしていた時代から、エンドユーザー自身が商品を選ぶ時代が変わった。SNSの浸透により、ファッションと同じようにインテリアを自己表現のひとつととらえる人が増えた影響も大きい。

これまで、お客様の多様化するニーズに応えるかたちで商品バリエーションを増やしてきたつもりだが、ショールームで生の声を聞くと『デザインはこっちが好きだけど、ガラスはこっちが好き』というように、現状では選べない組み合わせを求める割合が約60%にのぼることがわかった。そこでラシッサは、組み合わせの自由度がより高い室内建具シリーズにした」

情報提供: 新建ハウジング

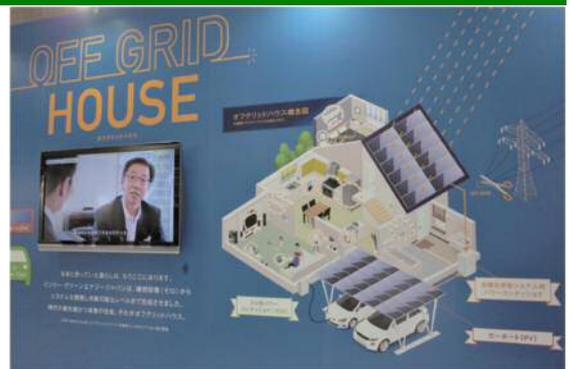
PV メーカー、ポスト FIT へ自家消費シフトを加速

太陽光発電メーカーによる太陽光発電システム(PV)と蓄電システムを連携させた「**創蓄連携システム**」の提案が活況を帯び、住宅への太陽光発電の導入は売電から「自家消費」に本格的にシフトしてきていることが、日本最大の太陽光発電関連の見本市「PV EXPO 2018」の出展企業の動向からわかった。

日中に太陽光発電で発電した電力を蓄電池に貯めて夜間に使うなどすることで、**経済的なメリットを創出する。官民を挙げて普及促進を進めている ZEH を実現しやすくなることや、2019 年に 10 年の余剰電力の買取期間が終了する人が大勢で出てくる「太陽光発電の 2019 年問題」への対応などでニーズが高まっている。**

「PV EXPO 2018」では、創蓄連携提案一色となり、PV メーカーの住宅向け太陽光発電の提案は本格的に「**自家消費時代、に突入したと言えそうだ。**」

情報提供: 創樹社



“ゆらぎ・肌ざわり・音”で、つい長湯したくなる心地よさ



トクラスは、“長湯品質”をコンセプトに、「光のゆらぎ」「肌ざわりの良いバスタブ」「音」で、“**ついつい長湯したくなる居心地のよさ**”を追求した『YUNO』を、4月23日より発売。情報過多な現代において「まるで風景を愉しむ温泉のように、日常の喧騒から離れて味わう心地よさを、日々の入浴で感じたい」という層に向けた商品。

◎演出効果を高めた照明「みなもライト」を搭載。水面の柔らかな光のゆらぎが天井に映し出され、また、風景をモチーフにしたデザインの壁には陰影が生まれる照明設計で、限られた浴室空間でも表情の変化を愉しめる。

◎残響音の多い浴室空間に最適化されたスピーカー「サウンドシャワーe」で愉しむ音楽と合わせて、居心地のよさを実現。

◎スイッチひとつで自動的にバスタブ洗浄ができる「おそうじ浴槽」をオプション搭載。掃除の手間を軽減

情報提供: トクラス